

# 老健 ひょうご

(一社)兵庫県介護老人保健施設協会機関誌



2023.March

第49号



# 我が施設自慢!

神戸中央病院附属老健 副施設長・看護師 井下 訓 見

当施設は、神戸市北区の北鈴蘭台駅を最寄りとした神戸中央病院の附属施設です。

地域包括ケアシステムでいう高齢者が住み慣れた地域で生活ができるよう、在宅復帰を行い在宅に戻られたのちも通いや短期入所を受け入れ、生活が維持できるお手伝いをしています。

これより、各専門職から施設自慢を紹介いたします。

## 【支援相談員】

相談員は3名おり、それぞれ得意分野や特色を生かし、利用者の日常生活動作や家庭環境など、常日頃情報交換・共有し、課題の発見や解決策について協議しています。居宅介護支援事業所や施設介護支援専門員と一丸となり、利用者とその家族が、安全に安心して日常生活を送ることができるよう取り組んでいます。

## 【看護師・介護職】

自慢は“コミュニケーションの良さ”です。サービスステーションではケア方法や環境調整のカンファレンスはもちろん、利用者との日々の関りで気になったことや嬉しかったこと、様々な会話が飛び交っています。それらの情報が利用者の安全対策や体調変化の早期発見に大きくつながっていると感じます。職種間の連携も取れており、各職種の専門性を生かしたチーム作りができています。

現在はコロナ禍で家族との面会制限が行われていますが、利用者の担当職員が家族の方へ利用者の生活の状況をお伝えし、コミュニケーションを通して安心して過ごしていただけるよう努めています。

## 【リハビリ職員】

自慢は施設の“長い回廊式の廊下”と“広々とした機能訓練室”です。

1辺が約30mの長い廊下は、療養棟での歩行練習にはとてもいい環境です。「1日〇往復する」や「いつか休憩なしで〇周できるようになる」など、それぞれ目標をもって運動に取り組まれています。



次に、機能訓練室。利用者にて好評で「広々としたスペースで練習ができるからここに来て」と仰る利用者もいらっしゃいます。病院を退院後生活期に移行し、リハビリの時間が短くなる方が多くいらっしゃいますが、上記のような環境を生かして、リハビリテーションの時だけでなく、自主トレーニングにも励まれております。



全老健機関誌2021年10月号に掲載されました。



## 【管理栄養士】

利用者のこれまでの食生活を踏まえ、栄養管理ができるよう他職種と日々連携しています。

歯科医師や歯科衛生士・各専門職でご利用者の食事中にラウンドするときは、栄養管理だけではなく利用者の生活そのものを共有でき、在宅復帰後の家族に対しても包括的に指導ができます。サービス担当者会議は皆勤賞です。